おぎんこぎん

おぎんは、はやくの母さんの子どもで、こぎんはあどの母さんの子どもで、あどからきた母さん、おぎんどご好きでねくてな。すぎでなくて、すぎでなくて、学校さありくてば、おにぎり握ってやるとき、ご飯さ毒入れてやって、学校さ行けばその妹っこ教えるのだど。

「あば、おめ飯さ毒入れだから、お昼になったら半分ずつ食べろう。おれ持ってきたおにぎり半分ずつ食べろう」

という子であったとや。せば家さ行けば母さん、この子、毒食わしたて死なねど思って、不思議がったど。

そうしてその子は成長して、学校卒業してから、アチャコ、むかしだばアチャコやな。人な家さたのまえで、つかわえる奉公な。奉公して、いい娘になって、りっぱになって、使わえた家から嫁にもらわれて行ったどや。自分の子は、婿もらえなくて、親一人、子一人で、年のいくまでそうして親子でくらしたどやって聞いであった。母親そういうであったから。だがら意地悪くするもんでね。トッピンカラリ。